

# オレハンジ通信 Vol.25

ささき 佐々木まゆみ市議会活動レポート

2019年2月発行

発行元/仙台市議会公明党市議団 仙台市議会議員佐々木まゆみ

仙台市宮城野区幸町2-21-11 TEL022-707-7462 メールアドレス sasaki@sendai-komei.jp



仙台市中央卸売市場業務開始式にて  
(1月4日)

## 平成最後の年に 「宮城野」より新たな決意を!

2019年4月30日「平成」という、一つの時代が終わろうとしています。仙台市は、泉・宮城・秋保の1市2町を編入合併し、県から権限を移譲されて市制100周年の1989年、平成元年に政令指定都市としてスタートし、同時に現在の5区制になりました。当時の人口は89.6万人(現在は108万人)。区名は水田開発以前にこのあたり一帯の原野を指して呼んだ名称であり、また古来よりの歌枕でもある「宮城野」に由来されました。

東日本大震災が発災し9年目を迎えようとしています。さらなる「心の復興」を目指し、新たな時代にふさわしい街づくりのため、これからも全力で取り組んで参ります。

仙台市議会議員 佐々木まゆみ

## 「仙台市産後ケア事業」が実現しました!

かねてから推進してきた「仙台市産後ケア事業」が、1月4日からスタートしました。

この事業は、病院や診療所、助産所において、宿泊またはデイサービス(日帰り)により、母体回復のための支援や育児指導、生活の相談などのサービスにより、母親が健やかな育児ができるよう支援するものです。いずれも有料となりますが、希望される方は区役所の家庭健康課で申請できます。

私は、初当選以来、5回にわたり仙台市議会定例会、予算等調査特別委員会で取り上げ、早期導入を推進してきました。今後も、安心して子育てができる環境整備に努めてまいります。

### 仙台市産後ケア事業のご案内

産後ケア事業とは、産後ケアを必要とする、生活で困窮している産婦や子育て中の子どもを支援する事業です。この事業は、産婦や子育て中の子どもを支援する事業です。この事業は、産婦や子育て中の子どもを支援する事業です。

**特長**

- 出産後、心身の不調や不安定がある
- 産後ケアセンターで産後ケアを受けることができる
- 母子ともに入院治療が必要と診断されていない

**サービスの内容・利用料**

サービス内容	利用料	利用時間	利用場所	利用人数
産後ケアセンター	1,022円(12,800円/月)	1,022円/日(9時～17時)	仙台市立産後ケアセンター	1名
産後ケアセンター(日帰り)	1,022円(12,800円/月)	1,022円/日(9時～17時)	仙台市立産後ケアセンター	1名
産後ケアセンター(宿泊)	1,022円(12,800円/月)	1,022円/日(9時～17時)	仙台市立産後ケアセンター	1名

**タイムスケジュール(例)**

時間	サービス内容	利用料
10:00 - 12:00	産後ケアセンター	1,022円
12:00 - 14:00	産後ケアセンター	1,022円
14:00 - 16:00	産後ケアセンター	1,022円
16:00 - 18:00	産後ケアセンター	1,022円

ささき 佐々木まゆみのプロフィール

昭和39年7月仙台市生まれ。  
平成23年仙台市議会議員初当選(宮城野区選挙区)。現在2期目。  
【仙台市議会】  
経済環境委員会副委員長。広報委員会委員長。防災・減災推進調査特別委員会副委員長。





## 生活に直結した身近な課題について細やかな質問を行う。

平成30年第4回定例会一般質問  
平成30年12月14日

### SDGs(エスディーゼーズ)について

**【佐々木まゆみ議員】**国連が2030年の達成をめざし2016年1月からスタートさせた「持続可能な開発目標」SDGsでは「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」「すべての人に健康と福祉を」「エネルギーをみんなに、そして、クリーンに」等17の目標が掲げられている。

目標達成には、全ての国や企業、NGO、NPO、国際機関、そして一人一人の主体的な参加が求められている。そこで、本市として積極的にSDGsに取り組む姿勢を示すことが市民の皆さんへの啓発に繋がるものと考えているが市長の所見を伺う。

**【郡市長】**この基本的な考え方は、本市の防災環境都市の推進や機能集約型都市づくり、子育て支援、地域活性化など、各般の施策に通じるものだと認識している。その実現にあたっては、行政はもとより、企業や市民団体など多様な主体との連携した取り組みが不可欠となる。現在、国や地方自治体、企業などでこのSDGsに向けた取り組みが広がりつつあり、本市においても市民一人一人の主体的な取り組みを推進することが重要になるものと考えている。

今後とも、SDGsの理念を踏まえながら、杜の都の都市環境を生かした持続可能なまちづくりを、市民の皆様方とともに進めて参りたい。

**【佐々木まゆみ議員】**学校教育における副教材の取り組み状況はどうか。

**【教育長】**新学習指導要領においては、持続可能な社会づくりの観点から、地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度など、国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を育むことが求められており、SDGsはこれに繋がる取組と認識している。この度作成された副教材は、ユニセフを通じ11月に市内各校へ配付された。中学校3年生の社会科において、関連する学習

を行う時期としては、概ね2月となっていることから、この副教材の活用について、改めて各中学校に周知していく。

### 防災対策について

**【佐々木まゆみ議員】**台風などの災害が迫っている時、まだ被害に遭っていないのに自宅を出て避難するという決断には大きな覚悟が必要だ。経験や「自分は大丈夫」という思い込みで判断することの危うさを、どう理解してもらうのか、この点について報告書素案では、避難行動の原則を個人単位で確認することが重要としている。そこで、本市としても「マイ・タイムライン」を導入し普及すべきと考えるがどうか。

**【危機管理監】**本市では地域の皆様と連携し、本市のハザードマップに地域で把握している危険な箇所を追加した地域版のハザードマップの作成や、大雨時の避難所運営マニュアルでお示したモデルを参考とする、地域毎のタイムラインの作成を進めているところである。引き続き、こうした地域毎の取り組みを促進するとともに、市民一人ひとりのタイムラインの作成を支援する取り組みについても、国や県の動向や先進事例を踏まえながら検討していく。

**【佐々木まゆみ議員】**災害時の備蓄品に国産の液体ミルクを早急に加えるべきと考えるがどうか。

**【危機管理監】**液体ミルクは常温で保存が可能で、粉ミルクのようにお湯を必要としないことから、災害時において一定の有効性があるものと認識している。

一方で、現在、国内では市販されておらず、本年9月の北海道胆振東部地震の際に外国産の液体ミルクが支援物資として送られたものの、飲用に抵抗があったことなどから、導入にあたっては一般消費者への普及が前提になるものと考えている。



また、販売予定の液体ミルクの賞味期限は本市が備蓄している粉ミルクの3分の1の6ヶ月と非常に短いことなどの課題もあることから、今後の製品開発や市場での流通の状況などを慎重に見極めながら、検討してまいりたい。

### フレイル予防の取り組みについて

**【佐々木まゆみ議員】**フレイル予防について、本市としての認識はどうか。

また、介護予防の大切さを広めていく上でフレイル予防の取り組みが重要と考えるがどうか。

**【健康福祉局長】**フレイルの方は、適切な食事や運動、社会参加を心がけることにより、生活機能の維持向上が可能であると言われており、高齢になっても自分らしく自立した生活ができるよう、早い段階から予防に取り組むことが大変重要であると認識している。

このような認識の下で、本市においては、日常生活に必要な機能の確認を行う「豊齢力チェックリスト」により、ご自身の心身の状態を確認していただく取組を行っている。

確認後、フレイルの方には、短期集中で筋力トレーニングや栄養指導を行う元気応援教室、地域の介護予防自主グループなどをご案内し、ご自分に合った取組を促すという形で進めている。今後も、栄養・運動・社会参加、それぞれの方面からフレイル予防の取組を積極的に進めてまいりたい。

### 観光振興の取り組みについて

**【佐々木まゆみ議員】**11月に行われた、東京・ホテルニューオータニでの「2018仙台の夕べ」の総括はどうか。

**【郡市長】**今年の仙台の夕べも首都圏の企業の皆様方や団体のトップの方々など、大変多くの方々にお越しを頂き、議員の皆様方と共におもてなしをすることで、多彩な仙台の魅力を大いにアピールすることができたと考えている。

特に今年は東北大学の野野原総長が次世代放射光施設に関するプレゼンテーションをプログラムに組み込んでご講演を頂いた。首都圏のメーカーを始めとする様々な企業の皆様にも本市のポテンシャルを強く印象づけることができたと思う。

また、現在、誘致活動を行っている企業のトップの方々にもお会いし働きかけることができ、本市への立地に対して手応えを感じたところである。今後とも「仙台の夕べ」の効果的な企画運営に努めながら、オール仙台として首都圏をターゲットとした戦略的なプロモーションに取り組んで参りたい。

**【佐々木まゆみ議員】**改めて「仙台の夕べ」の開催目的は何か。今後、観光誘客のため、例えば仙台・山形・福島と3市共催にするという考えはどうか。

**【文化観光局長】**仙台の夕べは、首都圏に対するシティプロモーションの役割を担っており、仙台にゆかりのある方々をターゲットとして、更なる交流人口の拡大や、投資促進などを目的として開催している。近年では、国連防災世界会議の開催や地下鉄東西線開業などを始めとする本市の旬な話題の提供や企業誘致における市長のトップセールスの場としても活用してきた。今後とも、これまで同様のスタイルを基本とし首都圏とのネットワークの維持・構築に取り組んでいく。

福島市・山形市との共催については、企業誘致を始めとした様々な案件での競合など、難しい課題があるもの考える。

一方、観光誘客のため、三市連携や東北連携など広域的な取り組みは重要と認識していることから、本市がリーダーシップを発揮し、両市とも相談しながら、旅行商品の造成や首都圏におけるプロモーションなど、様々な施策を展開し「仙台の夕べ」における展示等においても、そうした観点も踏まえ対応してまいりたいと考えている。







**新年祝賀会(1月6日)**

多くの地域の方々が参加されての燕沢地区・鶴ヶ谷地区の新年祝賀会に参加しました。



**ニホンザル大規模追い上げ・捕獲(12月7日)**

秋保地区で実施された追い上げ捕獲では、サルの出没状況や被害状況等に応じて銃器や花火を使用し行われました。有害鳥獣実施隊の皆様、常日ごろ、ありがとうございます。



**BE A HERO(11月27日)**

「いじめないこと、いじめを見たら、勇気を持ってやめるように言うこと、誰かに助けを求めること、ひとりぼっちの友達を仲間に入れること、困っている友達に声を掛けること、少しでもできたら、君は一つ、強くなる」全国を回っている岩隈選手に、仙台市より感謝状を贈呈しました。



**のりあい・つばめ試験運行(10月22日～11月16日)**

仙台市は平成29年4月に「みんなでつくろう地域交通スタート支援事業」を開始し、このたび、燕沢地区において「のりあい・つばめ」の試験運行を行うこととなり、出発式に参加しました。第2弾となる試験運行は本年春頃から開始され、ルートや停留所の位置を大幅に見直し、住民の要望が多い仙台オープン病院などに乗り入れる計画となっています。



**岩切駅南北自由通路及び岩切駅南口自転車等駐車場完成式(11月17日)**

11月18日から南北(岩切側・多賀城市側)自由に通行することが出来るようになり便利になりました。